

# 人文科学研究所研究叢書

## 7.『近代日本文学論—大正から昭和へ—』

1989年11月10日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格2,800円（税別）

ISBN 4-8057-5303-X

序	
<b>I 詩歌論</b>	
1 白秋と雀 —歌集『雀の卵』の成立を繞って	川口 紘明
2 大正末期朔太郎の詩について二、三のこと —アンビヴァレンスと原型イメージ	中川 敏
3 伊東静雄の詩 —《光と闇のあわい》をめぐって	井原 鉄雄
<b>II 作品論</b>	
1 心的変容の寓話 —『田園の憂鬱』論	長田 光展
2 長與善郎『青銅の基督』論	安川 定男
3 異界の人 —『禽獣』論	室井 庸一
4 寒流水域の透視 —『冬の宿』論	中島 昭和
5 伊藤整『街と村』論	行吉 邦輔
6 金子光晴『マレー蘭印紀行』論	松本 道介
<b>III 作家論</b>	
1 荷風の好色性	塚本 康彦
2 「大正」から「昭和」を射る者 —犀星文学における「責任倫理」問題	相楽 幸助
3 芥川文学とパロディー —『蜃気楼』をトーマス・マン『ドクトル・ファウストゥス』と読み併せて	相馬 久康
4 賢治文学と岩手県の風土	渡部 芳紀
索引	